

事業名 拡がれ！すぎなみ省エネ・創エネプロジェクト

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>①省エネナビ活用の省エネ相談は管理軒数 48 軒（延設置数 52 軒）で目標を達成。訪問診断も試行したが、先進機器の使用で有効活用できなかった設置者もあり、フォローが必要だった。（達成率 104%）</p> <p>②エネルギー実態調査事業では冬季調査参加者 357 名、夏期調査参加者は 422 名で報告会も開催。（達成率 84%/目標 500 軒）</p> <p>③簡易デマンド機器による事業所空調省エネ制御は 2 事業所に設置。（達成率 100%）</p> <p>④太陽光発電装置の助成金受給世帯に対する調査は回収率 56%、希望者 1000 人に分析結果を送付。（達成率 100%）</p> <p>⑤太陽光発電設置者ネットワーク事業は情報交換学習会の参加者が延 100 人を超えた。（達成率 100%）</p> <p>⑥相談所設置事業は 13 か所で開催。（達成率 130%）</p>	4
2	市民性	<p>どの事業でも常に他の NPO や多くの区民の参加を心掛けた。様々なイベントで参加者・区民同士の情報交換の場ができ、同じまちに暮らす市民が自分たちのまちのくらしやエネルギー政策について話し合う機会となった。</p> <p>相談所事業では、地域区民センターや環境情報館で、温暖化や省エネ・創エネのパネル展示、省エネ行動への投票、区内太陽光発電所（ソーラー設置世帯）の自己紹介パネルなど、わかりやすい情報提供・啓発によって、参加者から具体的な相談を引き出すことができた。</p>	5
3	波及効果	<p>エネルギー使用量は家の大きさ、家族人数などによって変わる。ナビデータを使った省エネ相談・アドバイスは具体的な省エネにつながり、契約電量の引下げ事例もある。</p> <p>太陽光発電機器設置者ネットワークづくりでは、専門家や設置者からの情報提供への評価が高く、保証期間後も見据えた、メンテナンスやトラブルの解決方法について情報を共有し、安心して装置の使用を継続していくためにネットワークは有効である。</p> <p>省エネ・創エネに関心のない様々な人も集まる地域区民センターでの相談所の開設は、すそ野を広げる機会となる。</p>	5

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

4	継続性	<p>完了した太陽光発電設置者へのアンケート以外の5事業はこれまで通り区・事業者・NPOの協働で継続実施する。</p> <p>省エネナビは14軒の設置継続が決まっており、省エネナビ及びエネルギー実態調査参加家庭には区の相談事業を案内し、アドバイスによって省エネ・創エネをさらに進める。</p> <p>デマンド機器も順次設置事業者を探す。</p> <p>太陽光発電機器設置者ネットワークは環境情報館講座での開催を継続し、省エネ住宅の見学を行う。</p> <p>相談所も区内各地区で年間6回の開催を計画している。</p>	5
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>毎月1回の運営会議を開催し、区・事業者・NPOが参加して、事業の進捗状況の確認、問題解決のために話し合った。</p> <p>すべての事業に区・事業者・NPOが参加して、各々の特性を生かした役割をこなし、成功に導いた。</p> <p>区が参加している安心感から、調査参加者数もこれまでNPOが独自に行ってきた時より飛躍的に増え、多くのエネルギー使用量データを収集することができた。</p> <p>今回の助成事業以前から温暖化防止という目的を共有し、区・事業者・NPOが力を合わせ活動してきたことが成功の理由のひとつと考える。</p>	5

合計点

24

ランク

S